

自然体で暮らす／いなか王国・高知県安田町

まんま

Vol.14

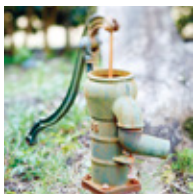
Enjoy Country Life
YASUDA TOWN

「第14号」 2013 FEBRUARY (2月)



安田町

まだまだ、ひやい日が続きゆうげんど
海の方からゆつくりと、春の気配が近づいてきゆう
桜の花がほころぶのも、もうちつと
ぽかぽかの日差しが待ち遠しい
町は冬の終わりになりゆうきね



Contents

13	12	11	10	9	7	5	3
安田町主要アグリMAP	安田の大地が育てた逸品	自主防災組織の取り組み	東島自治会、 南海トラフ巨大地震に備える	みんなの笑顔が集まりました！ 平成24年、お祭り・イベント報告	People ● 小松 鶴治さん 頑張れ！若人 ● 江淵 辰哉さん	安田町 まなびの時間 町で育った野菜はすっごくおいしい！ 安田小3年生が 施設園芸を学習	有岡正幹町長インタビュー 安心・安全で活気のある 協働のまちを目指して 安田育ちのフレッシュなフルーツがスイーツに 「キララ」誕生ノ 安田と夢ファクトリー



昭和30年代後半、西町の電気店店頭
写真提供／小松肇さん(安田)



町長自ら、安田町のスイーツをPR販売
〔平成24年9月29日東京銀座 高知県
アンテナショップ「まるごと高知」店頭にて〕



地域住民が主体となって取り組まれた
防災マップづくり

有岡●平成24年11月、唐浜地区に140人を収容することができ津波避難タワーが完成しました。引き続き町内各地域の地理的・地形的条件を加味した防災計画を立て、町民の皆さんとともに防災に向けたソフト整備も進めています。

南海地震対策も喫緊の課題です。

声を直接お聞きするとともに、町職員を各地域に配置する「元氣なやすだ地域再生支援事業」を実施して、行政と住民の距離を縮めるべく取り組んできました。25年度には、旧中山小学校に「集落活動センター」を設置し、住民自治の核となる「地域」の先達リーダーを中心に中山地域活性化のためのさまざまな活動を展開していく予定です。

また、昨年6月に「グラントオープンした」安田と夢ファクトリー『キララ』で安田発スイーツの地産外商を本格化します。この4月には東京・銀座「三越」で催事販売を行います。皆さんも参加します。ぜひ、皆さんにいらしてほしいですね。

有岡●北大野工業団地に県内民間企業との共同出資による大規模太陽光発電所（メガソーラー）を建設しています。発電量は一般家庭約300世帯分の電力を賄うことが可能な年間120万キロワットです。3月から四国電力株式会社に売電を開始する予定です。町民の皆さんにも還元できる施策となるでしょう。



建設中のメガソーラー

有岡●これからも、まちの皆さんが満足感の持てるまちづくりを進めていきます。小さいながらも、しっかりと光る魅力を持ったまちにしていきたい。町外で活躍されている皆さんにも、元氣に変わっていく安田町の姿を伝えられるよう頑張ります。

県外で暮らす町出身者にメッセージを。

一方で、輝るぼーと安田など町の活力となる整備を行いました。
有岡●買い物難民の解消を目的に輝るぼーと安田を整備しましたが、レストランを併設したことで地産外商への足掛かりにもなっています。また、安田まちなみ交流館「和」の開設で交流拠点も生まれました。

3期12年をどのように振り返りますか？
有岡●財政健全化の取り組みに努めた3期でした。おかげさまで、66億円あった債務を33億円にまで圧縮できたことは成果のひとつです。これには町民の皆さんの協力が不可欠でした。痛みを分かちつつ、行政改革を進められたことが、足腰の強いまちづくりにつながったのだと思います。

安心・安全で 活気のある協働の まちを目指して

平成24年5月の町長選挙で4選を果たした有岡正幹町長。
将来に向けた町政のかじ取りを聞きます。

4期目に当たり、どのようなまちづくりを考えていますか。

有岡●平成12年の町長就任以来、中山地域の振興なくして安田町の発展はない、と言いつづけています。これまでも行政懇話会などで地域の皆さんの



町津波避難タワー（唐浜地区）



オープン当日(平成24年6月3日)は、元ミスインターナショナル日本代表で高知県出身の白田久子さんがキャンペーンレディーとして来店客を迎えました。



安田町の食材を磨き上げる

「キララ」は、安田町の食材を活用して特産品の消費拡大につなげようという取り組みから始まりました。地産地消はもちろん「地産外商」で安田町の産品を広く売り出すことが目標。町内や周辺市町村だけでなく、東京・大阪といった都市圏もターゲットにするために、魅力的な商品の開発が必須で

す。そこで、高知を代表するシェフ、岡林実氏プロデュースの下、町内のさまざまな産品をスイーツとして売り出すための拠点として、「キララ」は誕生しました。現在、10人のスタッフで安田の食材にこそ磨きをかけています。

食を通して安田の新しい魅力を発信する、安田と夢ファクトリー「キララ」。その名のとおり、夢を創造するファクトリー工房として、町の新たな可能性を生み出します。

★安田と夢ファクトリー「キララ」
住所／安田町大字安田1760-1
Tel／0887-30-1735
営業時間／10～18時
定休日／火曜
(祝日の場合は、その翌日)



安田と夢ファクトリー

「キララ」誕生!

安田の味の新しい発信基地が誕生しました。
洋菓子店「安田と夢ファクトリー・キララ」
安田町産などのさまざまな食材を使った
スイーツを提供しています。



町産食材がスイーツに変身

平成24年6月にオープンした安田と夢ファクトリー「キララ」(以下「キララ」)。安田町や高知県東部の産品を使った洋菓子のお店です。店内のショーケースには常時10種類ほどのケーキのほか、焼き菓子などが並んでいます。高知県産のマンゴーを使用した人気のマンゴー大福「安田の白い夢」の製造・販売も行っています。

「キララ」のこだわりは、安田町産の果物、牛乳など、厳選された食材を使うこと。ブルーベリー、イチゴ、ブタンタンなど、安田町の旬の素材を生かしたケーキやタルトが、町内外で好評です。また、最近では注文を受けてからクリームを入れるメロンパンシークリームなど、ヒット商品も生まれています。

安田町生まれのスイーツをつくっています!

安田と夢ファクトリー「キララ」
パティシエ(洋菓子職人) 中屋奈那さん



「キララ」で、パティシエとして働いています。キララのお菓子は、安田町でつくられた果物や特産品を使っているのが特徴。季節によっては近隣のものになります。できる限り町産果実を使っています。実は町ではいろいろな果物がつくられていて、どれもフレッシュなのでおいさが引き立ちます。

「キララ」のケーキは、ちよつと大きめで果物がたっぷりつたボリューム感のあるものが多いんです。

「家族みんなで味わっていただきたい、そんな「キララ」の思いが込められています。

私は安田町唐浜の出身です。地元でパティシエとして働いて、本当にうれしい。地域の皆さんに「奈那ちゃん、おいしかったよ」と言ってもらえるのが何よりの喜びです。県外にお住まいの皆さんも、安田町に帰られた時はぜひ「キララ」で安田町生まれのスイーツを味わっていただきたいですね。

ドキドキ、ワクワクの収穫体験

30分ほどの勉強の後、現地での体験学習に向かいました。2班に分かれ、唐浜地区にある公文静史さんのピーマン栽培ハウスと、清岡克弘さんのナス栽培ハウスを訪ね、施設園芸の現状や栽培の苦労などを、生産者の方から教えてもらいました。※天敵農業やヒートポンプを取り入れたハウス栽培など、新たな取り組みも勉強。農業の進歩に触れることができました。

芽生えるふるさとへの愛情

最後は、地元野菜を使った料理を味わいました。料理を作ってくださったのは安田町食生活改善推進員の皆さん。農家の方に提供していただいたナスやピーマン、トマト、レンコン、里芋などが入った特製カレーライスとサラダを、子どもたちは「おいしいね!」とうれしそうにもりもりと食べていました。

多くの方の協力で実現した、子どもたちの体験学習。小松主幹は「農業という、自分たちの生活を支える仕事を頑張っている人たちがいることを知り、興味を持ってもらうことで、安田町を大切に



お世話になった
皆さんに感謝して、
いただきます～す!

き、収穫作業をすることで、子どもたちは見慣れた町に、新鮮な驚きと発見があったようです。

思うきっかけになれば」と話します。自分たちが住んでいる町の産業を知ること、子どもたちはその魅力を身をもつて実感したことでしょう。これからも地域の皆さんの協力を得ながら、子どもたちの郷土愛を育んでいけるよう、町として取り組みます。

※作物害虫の天敵を利用して、害虫を防除する農業のこと

安田小3年生が 施設園芸を学習

町で育った野菜はすっごくおいしい!

安田小学校の3年生が社会科授業の「環」として、地域の産業である施設園芸を体験学習しました。子どもたちの目に、地域を支える産業はどのように映ったのでしょうか。

地域のことに関心津々

未来の安田町を担う子供たちに、地域への理解を深めてもらおうと行われた今回の体験学習。テーマは施設園芸。「蔬菜園芸発祥の地」であり、施設園芸が基幹産業の安田町らしい学習テーマになりました。

実施されたのは11月6日。子どもたちはまず、教室で安田町の施設園芸について学習。先生役は、町役場で農業を担当する小松伸昌主幹。安田町の地形や気候の特徴、それを生かしてどのような農業が行われているか、そして農業の歴史について分かりやすく説明しました。「自分たちの地元に関することだけに、とても興味を持って話を聞いていましたね。こちらからの質問に対してもきはききと答えてくれました」。特に安田町の施設園芸が100年前から続いていることは、大きな驚きだったようです。

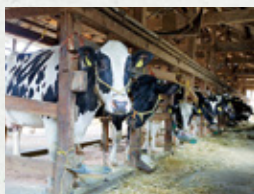




標高500メートルを超える高地にある栄峯地区。ここで酪農を営む江洲辰哉さんは、20歳代半ばにして江洲牧場の経営者として奮闘中。県内最年少の牧場経営者です。「子どもの頃から牛がいる生活だったので、酪農家になるのが当たり前のこと。小学

安田町栄峯在住 ●

江洲 辰哉 さん



県内最年少の牧場主が栄峯に

「家業の酪農を継ぐことで多くの夢がかないました」

生ころから家を継ぐと言いつづけていました」と江洲さんは話します。旧中山小・中学校に通った子ども時代。「山に登ったり、谷で魚釣りをしたりして遊びました」と自然の中で遊ぶ一方、牧場の手伝いも日課になっていました。中学を卒業後、すぐにでも家業を手伝うつもりだった江洲さんですが、「酪農家としての知識を養え」と母親の聲さんに諭され、高校の畜産科、さらに酪農高等学校に進学して、念願の家業に就いたのは22歳の時でした。

2年前に父親の恒雄さんが他界。現在は母と二人で牧場を切り盛りしています。30頭の牛を飼い、1日400リット



ルの生乳を出荷。生き物が相手の仕事だけに、365日休日はありません。それでもこの仕事が楽しいと、江洲さんは言います。「牛が大好きなんです。好きじゃないとやれない仕事ですね。もう少し、牛を増やしたいと思って計画中です。江洲さんの酪農家としての夢が広がっています。」



安田町西ノ川在住 ● 小松 鶴治 さん

「自分のことは自分でやる。それが長生きの秘けつぞね」

平成24年3月1日に100歳の誕生日を迎えた小松鶴治さん。安田町の最高齢者です。明治45年に安田町正弘に生まれ、18歳で結婚して西ノ川へ。現在は息子さん夫婦と一緒に生活しています。4人の子、7人の孫、15人のひ孫に恵まれました。とてもお元氣な小松さ



百寿のお祝い

ん。少し耳が遠いとのことですが、トコトコと歩く様子は元氣そのもの。「大きな病氣もせず、やっつけられました」と笑います。長寿の秘けつを伺うと、「自分のことは自分でやることかな。毎日の布団の上げ下ろしや掃除は自分でやりよります」。2年ほど前までは、家族の洗濯物も干していたといいます。今でも、日課の散歩を欠かしません。



17歳のころ。おいと一緒に

「いろいろ苦勞もしたけれど、今は本当に幸せ」と話す小松さん。どうぞ、いつまでもお元氣で過ごしてくださいね。100年の人生で、太平洋戦争や南海地震も経験しました。地震の時はぐらぐらと大きく揺れて、そりゃあ怖かった。家がつえる（潰れる）んじゃないかと思って3日間、畑に避難してました」と、当時を振り返ります。

祝・百寿!

東島自治会、自主防災組織の取り組み

南海トラフ巨大地震に備える



自治会長の中島瑞夫さん

将来、発生する可能性の高い南海トラフ巨大地震では、沿岸部で最大約14mの津波の襲来が予想される安田町。現在、町では防災に向けたさまざまな取り組みが行われています。

東島地区の活動もその一つ。同地区では平成18年に自主防災組織を立ち上げています。「防災に対する意識が高まったのは阪神・淡路大震災から。しかし、まだ津波対策はありませんでした。東日本大震災を契機に、津波避難を考えた防災活動を行っています」と、自治会長で自主防災組織のリーダーでもある中島瑞夫さん

は話します。

自治会ではこれまで、消防団・老人クラブなどと協働した防災学習、7カ所の避難場所決定、昨年2月5日に住民・スタッフ合わせて約250人が参加して行われた避難訓練、避難経路設定や避難誘導標識の設置等、さまざまな防災活動に取り組んでいます。

住民主体で進められた東島地区の防災対策。「まず、私たちの意識が大切。各地域で防災学習を行って、住んでいる場所に最適な防災を考えていかなければならない。これからは住民みんながむつみ、助け合いができる地域を目指し、二人の犠牲者も出さない防災力を身に付けていきたいと思います」と語る中島さんの熱心な口ぶりから、防災への強い意気込みを感じました。



今年の2月3日には、津波避難研修会も開催



設置された避難場所誘導・海拔表示標識

3月

土佐の町家
雛まつり



7月

唐浜駅まつり



8月

安田の夢まつり



平成24年、

お祭り・イベント報告

みんなの笑顔が集まりました！

平成24年も、安田町ではさまざまなイベントやお祭りが開催されました。そこには、まちの皆さんの笑顔がいっぱい。当日の様子を写真でご紹介します。

10月

神峯神社秋季大祭



11月

安田町健康ふれあいまつり



12月

なかやま山芋まつり



11月

安田町文化祭



作物名(收穫期)



ピーマン(10~6月)



フンタン (12月)



ミョウガ(2~7月)



山芋(10下旬~12月)



コメ(8~10月)(安田全域)



番外編

安田の大地が
育てた逸品

安田町主要アグリMAP

安田川の豊かな水と温暖な気候、そして生産者のあふれる愛情で安田町ではさまざまな農産物が育っています。安田育ちの自慢の逸品をご紹介します。

凡例

コメ } 町内全域
オクラ }

ユズ

十ス

山芋

三力

トマ

7-

フン

14

ユズ(10~11月)

＋又(9～7月)

オクラ(6~10月)(安田全域)

トマト(12~6月)

ミカン (10~12月)

※高知県発行「高知県の園芸」「高知県の特産林産」を基に
平成23年安田町での生産量上位10品目を掲載しました。



みんなあ、 頑張り ゆうきね！

農業編

安田町で働く人たちが、
さまざまな分野で活躍しています。
皆さん笑顔で働ける喜びを、
ふるさと安田町で
感じています。

編・集・後・記

今回は町内で働く方を多く撮影させていただきました。
紙面から安田町の元気が皆さんに伝わればと思います。



お問い合わせは 安田町役場 総務課

〒781-6421 高知県安芸郡安田町大字安田1850
TEL.0887-38-6711 FAX.0887-38-6780
HP <http://www.town.yasuda.kochi.jp/home.htm>
E-mail ysd-somu@town.yasuda.kochi.jp

安田町役場 中山支所／〒781-6430 高知県安芸郡安田町大字正弘716-2
TEL.0887-39-2008 FAX.0887-32-4008